Business LINUX ビジネスリナックス

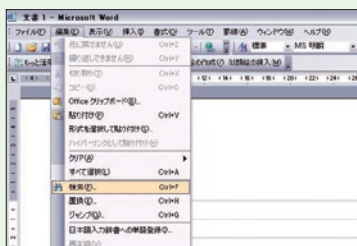
無料で高度な文書が作成可能!! OpenOffice.orgを極めよう!!

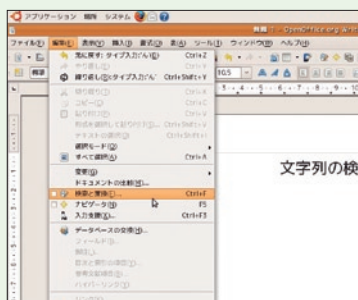
先日メジャーバージョンアップが行われ、より進化した「OpenOffice.org ver 3.0」。ここでは前号に引き続き、OpenOfficeの「Writer」と「Calc」の基本的な使い方を、Microsoft Officeの「Word」「Excel」の基本操作と比較しつつ解説していくぞ

ココが違う！ WriterとMS-Wordの基本操作

Q 文章の中から文字を検索したい

A メニューの「編集」から「検索と置換」を選択

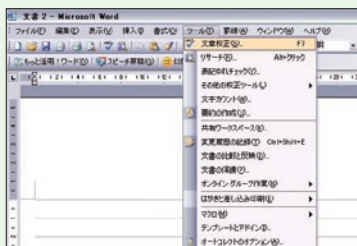
文書中から任意の文字列を検索したい場合は、メニューの「編集」から「検索と置換」を選択するか、「Ctrl」+「F」キーを押して「検索と置換」ウィンドウを表示させよう。「検索テキスト」のボックスに文字を入力し、「検索」ボタンを押すと文字の検索が行え、検索対象が反転表示される。

MS-OfficeのWordの場合は「編集」から行うが、「検索」と「置換」が分かれている

●ショートカットもWordと同様「Ctrl」+「F」

文字の検索はメニューの「編集」から。同時に文字の置き換えもできる事を覚えておこう

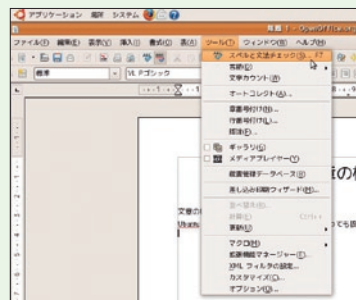
検索したい文字を入力して「検索」を押そう。大文字と小文字を区別することもできる

Q 文章校正はWriterではできないの？

A Writerでも文章の校正は当然可能

文中の文法チェックとして用いられるMS-Wordの「文章校正」。Writerももちろん、この機能を搭載している。手順は、メニューの「ツール」から「スペルと文法チェック」を選択する。スペルや文法がおかしい箇所は赤色で表示され、正しい語句の候補から選ぶ事ができる。

MS-Wordの場合は、「ツール」から「文章校正」を選択

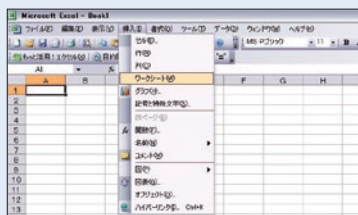
●スペルと文法のチェック

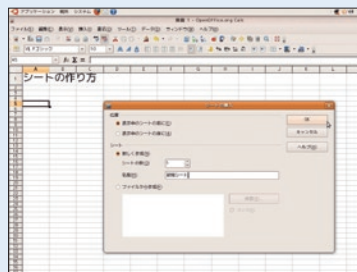
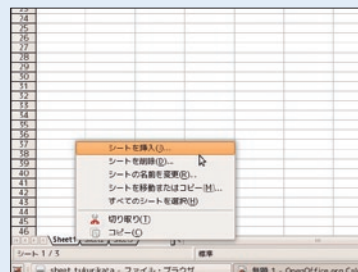
修正箇所は一カ所だけ無視する事も可能。任意の場所だけを校正する場合に便利

Word同様、文章校正のショートカットキーは「F7」キー。文章のチェックをすばやくできる

ココが違う！ CalcとMS-Excelの基本操作

Q 新しいシートを追加したい

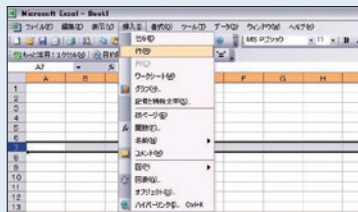
A シートの追加は「挿入」から

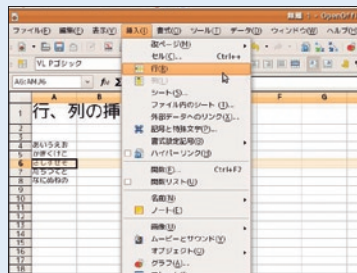
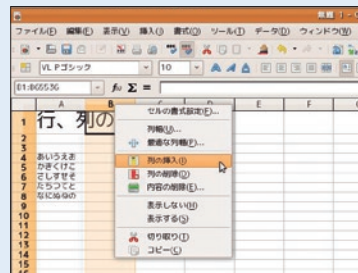
新しいシートの追加は、メニューの「挿入」から行うが、Calcの特徴としてファイルから直接シートが挿入できる。別ファイルからシートを持ってくる場合はこの機能が便利。また、Excelでは「挿入」を選択すると「ワークシート」と表示されるが、Calcの場合は「シート」となる点も注意。

Excelではメニューから「挿入」を選択し、「ワークシート」をクリックする

●ファイルからのインポートも可能

シートの名前や挿入位置を選択して「OK」ボタンを押すと、新しいシートが追加できる

画面下の「Sheet」タブを右クリックする事でも、シートの追加ができる

Q 行と列の挿入はどうやるの？

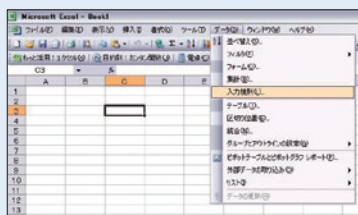
A 操作はExcelと同じ

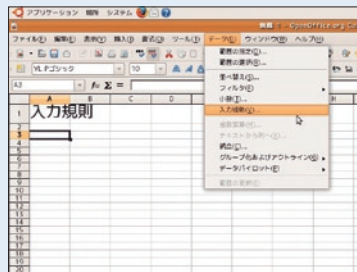
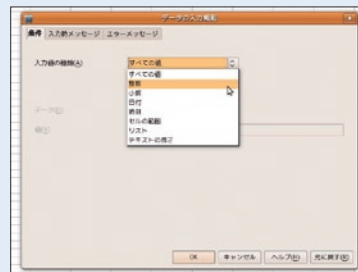
ExcelとCalcで、行と列の挿入操作は全くといっていいほど一緒だ。メニューから「挿入」を選び、「行」もしくは「列」を選択する。ショートカットはExcelが、「Ctrl」+「+」であるのに対し、Calcは「Ctrl」+「Alt」+「+」キーで、挿入操作が行われるぞ。

ExcelとCalcの操作はほぼ同じだ。メニューから「挿入」を選択し、行もしくは列を選択する

●CalcとExcelでショートカットもそっくり!!

行を挿入するには、左側の数字をクリックして行全体を選択した状態で、「挿入」を選択

列の場合も同様に、列全体を選択した状態で、「挿入」を選択する

Q セルに数字以外が入力されないようにしたい

A 「入力規則」を利用しよう

特定のセル内に数字のみ入力可能にしたい場合、データの入力規則を設定しよう。設定は簡単で、メニューの「データ」から「入力規則」を選択し、入力対象となるデータのフォーマット（整数・日付けなど）を選択すればよい。エラーメッセージなどの設定も、ここで行う。

Excelの場合、メニューの「データ」から「入力規則」を選択する。

●整数や少数、時刻などの入力ルールが作れる！

Calcの場合、「データ」メニューのなかから画面の「入力規則」を選択しよう

入力値の種類を選択し、「OK」ボタンを押す。これで、入力できる文字のルールができる

コマンドのメリット

・キーボードだけで操作できる
・同じ作業の繰り返しがラク
・ルート権限の操作が可能

今回紹介する超便利コマンドはコレだ!

コマンド操作をマスターすれば、ウィンドウ操作よりも作業が素早く実行できる。さらにネットワーク経由でのコマンド操作を使えば、何でもできるようになるのだ

ファイルリンクを張る「ln」コマンド

ln [オプション] リンク元 リンク先

Linux版ショートカットでディレクトリの指定も可能

Windowsには、特定のファイルやディレクトリに直接アクセスできる「ショートカット」という機能があるが、Linuxでは「リンク」がそれに相当する。リンクを張るにはlnコマンドを使おう。「-s」オプションを付ければ相手を参照するだけのシンボリックリンク、「-s」を省略すると参照先の本体ファイルを削除することもできるハードリンクとなる。

lnコマンド実行例

```
$ sudo ln -s /usr/bin/perl /usr/local/bin/perl
```

オプション「-s」を付けると、Windowsのショートカットと同じ機能を持つシンボリックリンクとなる

PLUS 1 ディレクトリにリンクをはる

Web公開用ディレクトリにホームディレクトリ内からリンクを張り、すぐにアクセスできるようになった

FTPサーバと通信する「ftp」コマンド

ftp [オプション] ホスト名

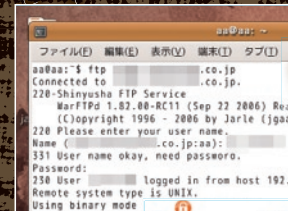
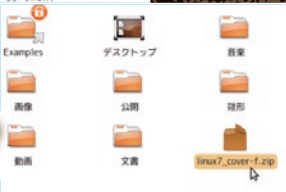
FTPサーバへファイルの送受信ができる

FTPサーバでファイルを送受信する場合、GUIのソフトを使うことが多いが、ftpコマンドも有用だ。「ftp ホスト名(IPアドレス)」でログインした後は、「get」がダウンロード、「put」がアップロード、「lcd」がローカル側のディレクトリ移動、「cd」がサーバ側の移動と覚えておくとよい。バイナリ転送するときは「bin」と入力しよう。

ftpコマンド実行例

```
$ ftp xxx.xxxx.ne.jp
Connected to xxx.xxxx.ne.jp
Name:admin
Password:
ftp>cd /home
ftp>bin
ftp>get file.zip
```

「xxx.xxxx.ne.jp」というホストにログインした例。「bin」はバイナリモードへの変更。「get file.zip」と指定すれば、「file.zip」をダウンロードする

PLUS 1 FTPサーバから実際にファイルダウンロード

ftpコマンドでサーバにアクセスし、ダウンロードを実行できる。ファイル一覧は「ls」で取得できる

ファイルの末尾を表示する「tail」コマンド

tail [オプション] ファイル名

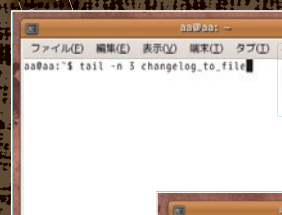
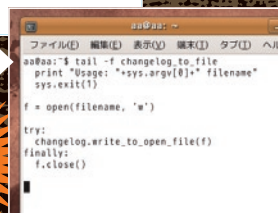
サーバログなど最新情報を見たいときに重宝する

テキストファイルの内容を表示するコマンドはmoreや「cat」、逆順表示の「less」があるが、ログのような膨大なデータの最新情報だけを見たいならばtailコマンドがオススメだ。オプションで行数やバイト数の指定ができるほか、「-f」オプションを付けると追記されたデータをリアルタイムで監視することが可能となる。

tailコマンド実行例

```
$ tail -n 3 logdata.txt
198行目
199行目
200行目
```

「-n」オプションのあとに数値を付けると、末尾からその行分だけ表示する

ユーザーログの情報をリアルタイム監視

「-f」オプションを付けてログファイルを指定すれば、追記情報がすぐにわかる

PCを終了させる「shutdown」コマンド

shutdown [オプション]

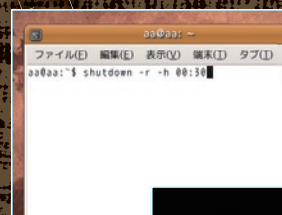
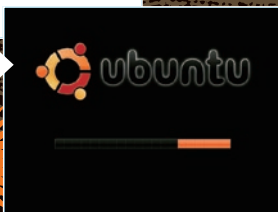
時間を指定して再起動やシャットダウンができる

システムを終了するときは、通常「システム」→「シャットダウン」を選ぶが、コマンドならば、時間を指定したり、ファイルチェックを省略して高速に再起動することが可能。似たコマンドは複数あり、「halt」は高速シャットダウン、「reboot」は再起動、「fastboot」は高速再起動となっている。なお、Ctrl+Cでシャットダウンはキャンセルできる。

shutdownコマンド実行例

```
$ shutdown -r -h 10:00
userからのブロードキャスト・メッセージ
(/dev/pts/0) at 10:00 ...
システムはhaltに向けて、
10分後にシャットダウンします!
```

「-r」オプションで再起動、「-h」なら実行時間の指定が可能。指定できる時間は2分後以降となる

速攻で再起動するならば「reboot」が便利

「reboot」は「shutdown -r now」と同じコマンドで、再起動を実行してくれる

パスワードを変更する「passwd」コマンド

passwd [ユーザー名]

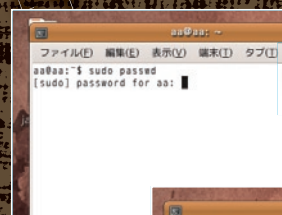
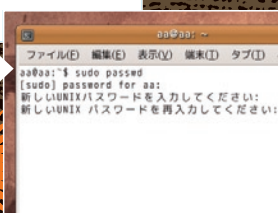
頻繁なパスワード変更でセキュリティを高めよう

パスワード変更の重要性はわかっていても、マメにパスワードを変えるのは手間が掛かる。しかし、コマンド「passwd」で現在のパスワードと新しいパスワードを2回入力するだけで、簡単にパスワード変更ができるのだ。また、管理者権限があれば「passwd ユーザー名」と指定することで、該当ユーザーのパスワードを変更することができる。

passwdコマンド実行例

```
$ passwd
Changing password for writer.
現在のUNIXパスワード:
新しいUNIXパスワードを入力してください:
新しいUNIXパスワードを再入力してください:
passwd:パスワードは正しく更新されました
```

ログイン中のユーザーのパスワードを変更するなら「passwd」だけでOK。現在のパスワードと新しいパスワードを続けて入力する

ほかのユーザーのパスワードを変更する

ルート権限なら、全ユーザーのパスワードを変更できる。しかも、各ユーザーの現パスワード入力は不要

動画ファイルをLAN内で共有できる「ネットワークシアター」を作ろう!

リナックスラボ

Linuxでマルチメディアサーバの構築にチャレンジ!!

Linuxマシンに置いた
動画や音楽ファイルがパソコンやテレビで視聴可能!
メディアサーバを構築しよう!!

メディアファイルはすべてサーバに置いてテレビやパソコンで見る

「パソコンの動画ファイルをテレビで見たい」そんな目的を解決するための一番スマートな方法なら「メディアサーバ」の構築だ。メディアサーバとは、動画や音楽、画像ファイルなどあらゆるメディアを共有状態にしてしておけるサーバのことで、「DLNA」という規格に適合したサーバソフトを使えば、PS3やXBOX360といったDLNA対応のゲーム機や、専用再生プレイヤーを使って、テレビ上で視聴することができるのだ。また、テレビだけではなく、LANで繋がったWindowsやMac、Linuxマシン上でもメディアの再生ができるので、複数台のパソコンをLANでつないでいるような環境ならば非常におすすめだぞ。また、音楽ファイルならば、iTunesサーバとして公開し、iTunesのネットワークプレイリストとして、別のマシン上で手軽に再生させることもできる。さらに、容量の多い動画をメディアサーバー一カ所に集めておくことで、ほかのパソコンの容量を節約できるというメリットもある。

そこで、今回のコーナーではLinuxにメディアサーバソフトインストールしてサーバを立て、実際にテレビやパソコンで再生してみることにチャレンジしてみるぞ。

家電とパソコンで使える共通規格「DLNA」

DLNAとは、家電やパソコンを相互接続するための共通規格で、メディア再生できるゲーム機などに採用されている。

DLNAには、ソニーやマイクロソフトなど大手企業が加盟しているため、実用性は高い

メディアサーバに置いた動画や音楽ファイルはどこからでも再生可能に!

メディアサーバ（Linux）　メディアサーバとなるLinux上に動画、音楽、画像ファイルをまとめて保存しておく。

LAN

PS3

TV

XBOX 360

Windows

WindowsからはDLNAよりも共有フォルダとして直接アクセスする方法がおすすめ

Mac

MacはDLNAとの相性が悪いが、フリーソフトの「VLC」というメディアプレイヤーを使えば再生することが可能だ

Linux

Linuxの場合は、複数のソフトの組み合わせでDLNAクライアントを作ることができる

Avel LinkPlayer

PS3やAvel Linkplayerなどテレビ出力ができるDLNA機器を使えば、メディアサーバ上のファイルをテレビで見ることができるのだ

ネットワーク上のメディアサーバ上に動画や音楽などのメディアファイルを置いておけば、WindowsやMac、さらにはテレビでも再生できるようになる！

DLNAに対応しているハードをチェック!

メディアサーバの規格であるDLNAは、2003年策定と比較的新しいものであるが、対応するハードやソフトは順調に増えている。なんといっても代表的なのは、PLAYSTATION 3（PS3）だ。MPEGはもちろん、ファームウエアのバージョンアップにより、DivXといったコーデックにも対応しており、実用度は非常に高い。また、マイクロソフトのXBOX360もDLNAクライアントの機能がある。

一方、Windows、MacなどのOSは標準ではDLNAサーバのファイルは再生することができないが、ブラウザ経由などで動画をダウンロードし、再生することが可能になっている。

そのほか、現在では生産自体は終わっているが、「Avel LinkPlayer」と「LinkTheater」というネットワークプレイヤーもある。

■PLAYSTATION 3

対応フォーマット

MPEG-1、MPEG-2、H.264、DivX、VC-1、ATRAC、AAC、WMA、MP3、WAV、JPEG、GIF、PNG、TIFF、BMPなど

人気ゲーム機のPS3はDLNAに対応している。ファームウエアのアップデートにより対応するフォーマットが増える

■XBOX360

対応フォーマット

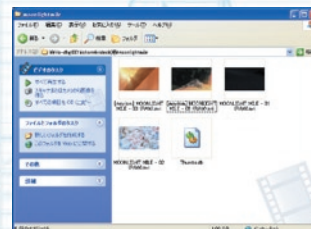
WMV、AVI、DivX、MPEG4 Part2、MP3、WMA、AAC、JPEG

XBOXもDLNA対応。一部フォーマットは、Xbox Liveによるアップデートが必要

■Avel LinkPlayer

対応フォーマット

MPEG-1、MPEG-2、DivX、XviD、WMA、MP3、MP2、AAC、AC3、PCM、OggVorbis、BMP、JPEG、GIF、PNG

DLNAクライアント機能を持つDVDプレイヤー。「LinkTheater」というハードも有名

■Windows

Windowsには DLNA対応ソフトもあるが、Windowsがアクセスできる共有フォルダにメディアを置いて再生した方がよい

対応フォーマット

※コーデックによってほぼすべてのメディアが再生可能

古いパソコンにLinuxを入れてサーバに

メディアサーバを設置するマシンに、高いスペックは必要ない。だが、常時起動させることになるので、もっともおすすめなのは、使っていない古いノートパソコンにLinuxとメディアサーバソフトをインストールすることだ。もちろん、デスクトップマシンに入れて、部屋の隅などに置いておいても問題ない。

また、古いマシンに入れるならば、メディアサーバ専用と割り切ってしまい、Linuxベースのメディアサーバ専用OSをインストールしてしまうのもアリだ。

ノートパソコンでもOK

古いノートパソコンでもLinuxのメディアサーバとしては十分機能する。ただし、LANポートは必要だ

メディアサーバ専用Linuxもあり

メディアサーバとしてだけ利用するならば、メディアサーバ用にカスタマイズされたLinuxを使うとよい

メディアサーバ専用にLinux内蔵の玄箱やLinkStationを使う

これからメディアサーバ用マシンを用意するなら、Linux搭載の「玄箱（くろばこ）」もおすすめ。最新の「KURO-NAS/X4」ならば、はじめからDebianが導入されており、メディアサーバのインストールが非常にラク。HDDも4台搭載でき、大量の動画や音楽ファイルを保存することが可能だ。ただし、ソフトインストールにはWindowsマシンが必須になので注意。

そのほか、はじめからDLNAサーバ機能を持つ、LinkStationを購入する手もある。自由度は低いが、メディアサーバとして使うなら、一番簡単な方法となる。

■KURO-NAS/X4

SPEC

実売価格●30,420円　CPU●ARM9Core 500MHz　メモリ●128MB　インターフェイス●USB2.0×2、9ピンオスシリアルコネクタx1　搭載HDD数●3.5インチ×4

LinuxBOX玄箱の最新版。HDDを4台内蔵でき、専用インストーラでDebianを簡単にインストールできる。HDDは別売り

■LS-WH1.0TGL/R1

SPEC

実売価格●25,520円　インターフェイス●USB2.0×2　HDD●1TB

DLNAに対応するネットワークHDD。Linuxをインストールした場合に比べて自由度はないが、初期状態からDLNAサーバとして利用することができる

Linuxから動画や音楽を再生可能に!

メディアサーバソフトのインストールにチャレンジ!

ブラウザからほとんどの設定ができるメディアサーバ「MediaTomb」をインストールしてPS3からメディアファイルを再生してみよう!

ブラウザで設定できるDLNAサーバMediaTomb

Linux上で動作するDLNAサーバソフトはいくつかあるが、設定の簡単さ、機能面で優れている「MediaTomb（メディアトゥーム）」をここでは解説していく。MediaTombはDLNAに準拠しており、動画・音楽・画像ファイルを公開しておけば、PS3など、DLNA対応機器から、簡単に再生することができる。

また、MediaTombの最大の特徴に、ブラウザからすべての設定が可能なことがある。これにより、GUIをインストールしていないLinuxマシンでも使うことが可能だ。LAN経由でブラウザからアクセスすれば、Windowsマシンなどからも設定することができる。なお、Windowsなど、ほかのマシンからメディアファイルを転送するときは、SambaかFTPサーバを利用するとよいだろう。

注意点としては、MediaTombにはアカウント認証機能はあるものの、セキュリティ面で安全なものではないということ。そのため、インターネットにサーバを公開することはオススメできない。あくまで、LAN内での用途にとどめよう。

設定などはブラウザからでき、LAN経由でほかのマシンから設定することも可能

チャレンジ CHALLENGE 1 MediaTombをインストールしてみよう

MediaTombはUbuntuなら「追加と削除」から依存関係を含めてまとめてインストールすることができる。インストール後は、PS3への対応や対応フォーマットを増やすために設定ファイルの書き換えが必要で、それには管理権限が必須。そのため、管理者権限でファイラーを起動し、設定ファイルを修正しよう。このとき、viエディタを使えるならば、端末から設定ファイル「/etc/mediatomb/config.xml」を直接開いて、修正するのがはやいだろう。

1 追加と削除からインストール

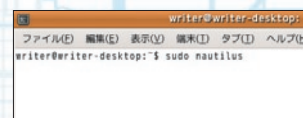
Ubuntuのメニュー「アプリケーション」→「追加と削除」を選び、右上のテキストボックスに「media tomb」と入れて検索し、インストールを行おう

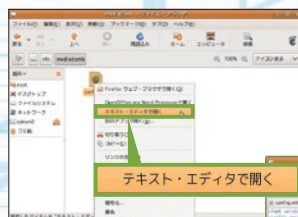
2 MediaTombの起動

```
writer@writer-desktop:~$ sudo /etc/init.d/mediatomb start
 * Starting upnp media server mediatomb
writer@writer-desktop:~$
```

メニュー「アプリケーション」→「端末」で端末を起動し、「sudo /etc/init.d/media tomb start」でMediaTombを起動する

3 管理者権限でファイラーを起動

```
writer@writer-desktop:~$ sudo nautilus
```

端末で「sudo nautilus」と入力し、ユーザーパスワード入力後、管理者権限で端末を起動する

4 設定ファイルを開く

ファイラーで「/etc/mediatomb」にある「config.xml」を右クリックメニュー「テキスト・エディタで開く」を選択して開く

設定ファイルがテキストエディタで開かれるので編集を行う

5 設定ファイルの編集

```
<protocolInfo extend="no"/><!-- For PS3 support change to "yes" -->
```

"yes"

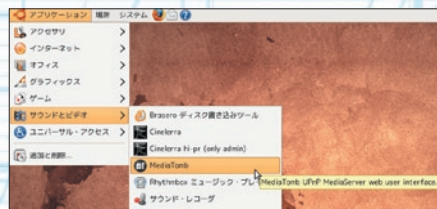
「protocolInfo」ではじめる行の「no」を「yes」に変更する。

```
<map from="asx" to="video/x-ms-asf"/>
<map from="wma" to="audio/x-ms-wma"/>
<map from="wax" to="audio/x-ms-wax"/>
<map from="wmv" to="video/x-ms-wmv"/>
<map from="wvx" to="video/x-ms-wvx"/>
<map from="wm" to="video/x-ms-wm"/>
<map from="wmx" to="video/x-ms-wmx"/>
<map from="m3u" to="audio/x-mpegurl"/>
<map from="pls" to="audio/x-scpls"/>
<map from="flv" to="video/x-flv"/>
<!-- Uncomment the line below for PS3 divx support -->
<map from="avi" to="video/divx"/>
<!-- Uncomment the line below for D-Link DSM / ZyXEL DMA-1
<map from="avi" to="video/avi"/>
<map from="mpg" to="video/mpeg"/>
<map from="MPG" to="video/mpeg"/>
<map from="mpeg" to="video/mpeg"/>
</extension-mimetype>
```

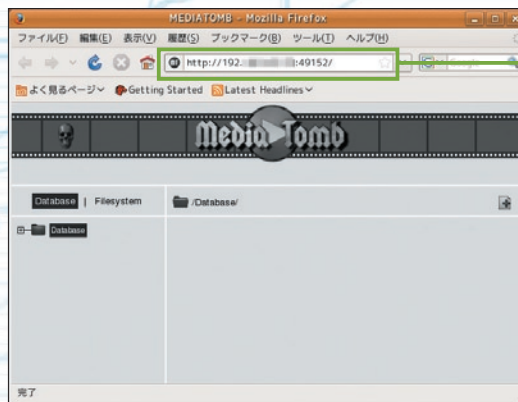
「/extension-mimetype」の行の上にある各行を画面のように変更する。設定完了後は、端末で「sudo /etc/init.d/mediatomb restart」を実行して反映させておくこと

チャレンジ2 CHALLENGE ブラウザでMediaTombにアクセス

MediaTombの管理画面は、「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」→「MediaTomb」を選ぶか、ブラウザのアドレス欄に「127.0.0.1:49612」と入力すればよい。LAN内の別のパソコンからアクセスする場合は、アドレスを「サーバのIPアドレス:49612」としよう。なお、ブラウザがIEだとファイルの追加や削除は問題ないが、一部操作に制限があるので、Firefoxの利用がオススメだ。

1 MediaTomb設定画面の起動

メニューから「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」→「MediaTomb」を選ぶ

2 MediaTombの設定

Mediatombの設定は、ブラウザに表示されている「http://IPアドレス:49162/」から行う。ネットワーク内のほかのパソコンからも設定可能だ。

ブラウザ上でファイルの追加や削除が行えるMediaTombの設定画面

チャレンジ3 CHALLENGE 公開するファイルを設定して再生可能に

ファイルを公開するには「Filesystem」メニューを開き、ツリー構造からメディアファイルのあるディレクトリを辿って共有したいディレクトリを追加すればよい。すると、PS3などDLNAクライアントからファイルがネットワーク経由で参照でき、再生することが可能になる。

1 Filesystemの選択

画面左にある「Filesystem」をはじめに選択する

2 ファイルの追加

ツリー構造でHDDの内容が表示されるので、共有したいファイルを選んで、「+」ボタンで追加する

PS3で再生成功!

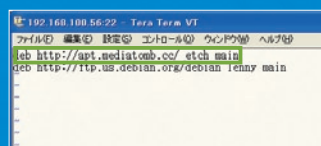
PS3の動画メニューに「MediaTomb」が表示され、中にはファイルが見える

見事動画ファイルの再生成功! 再生方法の詳細は次ページにて

Debianに入れた玄箱にMediaTombをインストールしてみよう

玄箱にMediaTombをインストールするときは、当然ながらコマンド操作が必要。手順としては、aptのソースリストにMediaTombのサーバを追加し、apt-getコマンドでインストールをするだけ。インストール後は、サーバを起動することも忘れないように。玄箱だけではなく、ほかのDebian系OSでも同様の操作でインストールすることができる。インストールが完了したら、ネットワーク内のほかのマシンからブラウザ経由で設定しよう。

STEP1 aptのソースリストを編集

あらかじめ、「su -」でルートユーザーになっておき、「wget http://apt.mediatomb.cc/key.asc -O- -q ¦ apt-key add -」を実行したあと、「vi /etc/apt/sources.list」でソースリストを開く

リストに「deb http://apt.mediatomb.cc/ etch main」を追加して保存する

STEP2 MediaTombをインストール

KUROBOX-TERA:~# apt-get update

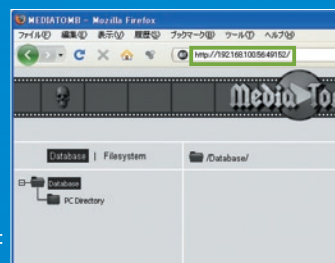
「apt-get update」でaptリストをアップデートする

KUROBOX-TERA:~# apt-get install mediatomb

「apt-get install mediatomb」を実行すればインストールが始まる

STEP3 MediaTombの開始

KUROBOX-TERA:~# /etc/init.d/mediatomb start

「/etc/init.d/mediatomb start」を実行すれば、MediaTombが起動する

設定画面には「http://[IPアドレス]:49152/」でアクセス可能

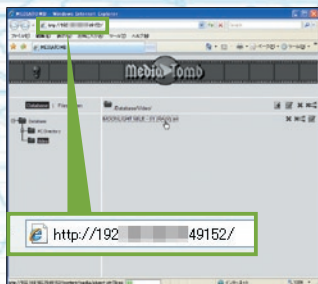
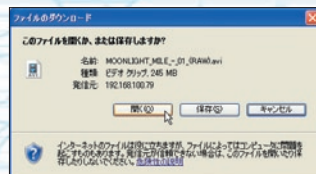
いろいろなハードでメディアを再生してみよう!

MediaTombをインストールしてDLNAサーバ構築が完了したら、DLNAクライアント機能がある各ハードでメディアサーバ内のファイルを再生してみよう。WindowsやMacのように、DLNAクライアント機能がなくても、ブラウザ経由で簡単に再生することが可能だ。なお、以下で紹介しているのは、動画の再生方法だが、音楽ファイルや画像ファイルの場合も同じ手順となる。

Windowsのケース

Windowsの場合は、MediaTombの管理画面からファイルを選んで再生する

1 ブラウザでMediaTomb起動

ブラウザのアドレス欄に「http://[LinuxのIPアドレス]:49152」と入力してMediaTombの管理画面を表示する

2 動画の選択

「Video」から再生したい動画を選択する

3 動画再生に成功!

動画がダウンロードされ、再生が始まる

PS3のケース

PSの場合は自動的にメディアサーバが認識されて再生することが可能

1 MediaTombを選択

PS3のメニュー「ビデオ」から「MediaTomb」を選択する。表示されていないときは「メディアサーバー検索」を実行してみよう

2 動画ファイル選択

フォルダを辿って動画ファイルを選択し、○ボタンで実行する

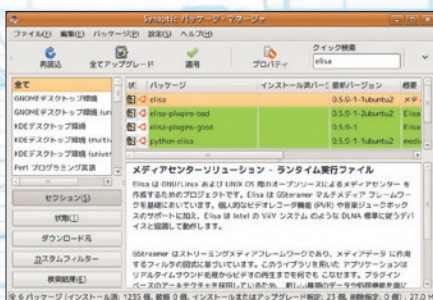
3 動画再生開始!

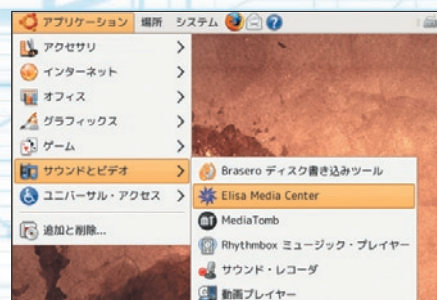
PS3上で動画再生が始まる。通常の動画同様、△ボタンでメニューを表示することが可能だ

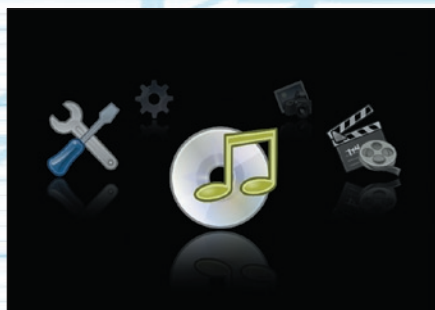
Linuxからでも再生できる!

Linuxからメディアを再生したい場合もブラウザ経由で可能だが、ElisaというDLNAクライアント機能があるソフトもあるので、紹介する。起動すると、全画面のメニューになり、HDD内のメディアファイルと、ネットワーク先のファイルを再生できるのだ。ただし、DLNAに対応するのは音楽ファイルだけとなっているので、動画はブラウザから再生しよう。

Elisa
作者名●Fluendo Embedded
インストール方法●「Synapticパッケージ・マネージャ」より

1 Elisaのインストール

「Synapticパッケージ・マネージャ」を起動し「クイック検索」で「elisa」を検索して、インストールを行う

2 Elisaの起動

インストールが完了したら、「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」→「Elisa Media Center」から起動できる

3 メニューの選択

画面一杯に音楽や動画のアイコンが表示されるので、クリックして選択する

4 音楽の再生

音楽ファイルはDLNAに対応しているので、「Home network」から起動できる

5 日本語にも対応!

ローカルのファイルなら「Music Library」から再生可能。日本語ファイルも問題なく表示できる

音楽ファイルを共有する最強の方法!

iTunesサーバ「Firefly」をインストールしてみよう

音楽ファイルをネットワーク上で共有するならば、DLNAではなく、iTunesサーバを立てて共有させる方法もある。この場合、再生できるメディアプレイヤーはiTunesのみとなるが、iTunes内の共有プレイリストに、メディアサーバ内の音楽ファイルが自動的に表示されるので、HDD内にある音楽ファイルと同じような手軽さで、メディアサーバ上のファイルを再生することが可能になる。

そこでLinux用iTunesサーバとして、かつて「mt-daapd」と呼ばれていた「Firefly」のインストール手順も併せて紹介する。

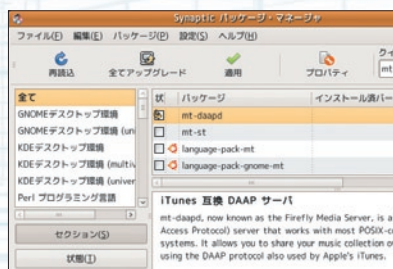
なお、iTunesはWindowsとMac用しかリリースされていないが、LinuxでもWineを使えばインストールできるぞ。

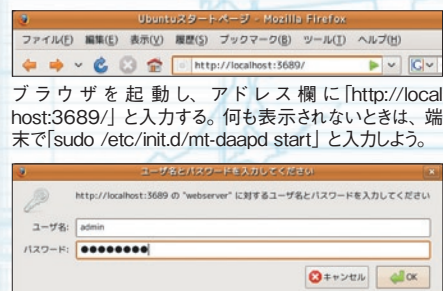
Firefly
作者名●Ron Pedde
インストール方法●「Synapticパッケージ・マネージャ」より

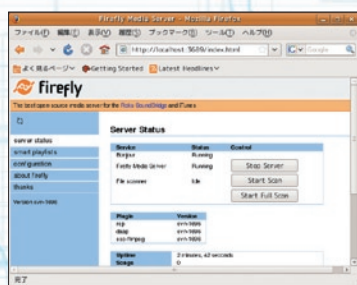
iTunesのプロトコルDAAPに対応するファイル共有サーバ

Fireflyをインストールして音楽ファイルを共有する

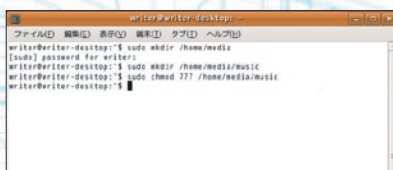
Fireflyのインストールは、「Synapticパッケージ・マネージャ」から行う。検索キーワードが「Firefly」ではなく、「mt-daapd」なので注意しよう。インストールが完了したら、保存ディレクトリを設定し、音楽ファイルをコピー指定、管理メニューからディレクトリ内をスキャンすればよい。あとは、iTunesを起動すれば、「Firefly svn1696」という名前で共有ライブラリが作成され、再生できるようになる。

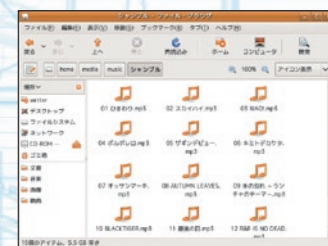
1 Fireflyのインストール

Ubuntuメニューから「Synapticパッケージ・マネージャ」を選び「クイック検索」で「mt-daapd」を探してインストールしよう

2 ブラウザからアクセス

ブラウザを起動し、アドレス欄に「http://localhost:3689/」と入力する。何も表示されないときは、端末で「sudo /etc/init.d/mt-daapd start」と入力しよう。

ユーザ名に「admin」、パスワードに「mt-daapd」と入力して「OK」ボタンを押す

3 管理画面が開く

Fireflyの管理画面が開くので、ブックマークしておこう

4 保存ディレクトリの作成

Fireflyの音楽ファイルディレクトリは「/home/media/music」なので、管理権限で作成し、全ユーザーで書き換えができるようにパーミッションを変更しよう

5 音楽ファイルのコピー

作成した「/home/media/music」ディレクトリに音楽ファイルをコピーする。サブディレクトリを作り、その中にコピーしてもOK

6 音楽ファイルのスキャン

管理画面で「START SCAN」ボタンを押して、音楽ファイルをスキャンする

大成功!

Firefly svn-1696 o...

iTunesからアクセス可能に

ネットワーク内にあるiTunesに「Firefly svn1696」という共有ライブラリが表示され、音楽ファイルを再生できるようになる

共有ディレクトリを追加

共有する音楽ファイルのディレクトリを追加したいときは、管理画面の「configration」にある「Add music folder」ボタンから行おう

はじめからメディアサーバ機能のある専用OSを活用!

メディアサーバ専用のOSをインストール

Fredora10をベースにしたミュージックサーバVortexBox

Linuxをメディアサーバ専用として使うならば、はじめからメディアサーバ用にカスタマイズされたLinuxOSを使うのも手だ。おすすめは、Fedora10ベースに開発されている「VortexBox」。DLNAはもちろん、iTunesサーバにも対応するメディアサーバで、GUIはもたないものの、基本的な操作はブラウザからすべて行うことができる。GUIがないことで、非常に低スペックなマシンでも問題なく動くので、古いパソコンに導入するのもアリだろう。

また、Sambaが自動的にインストールされるため、Windowsマシンからファイルを転送することが非常に簡単なのもポイント。

VortexBox Ver.0.4
作者名●vortexbox.org　ファイル名●vortexbox-0.4.iso
URL●http://vortexbox.org/

Fedora10をベースにしているがGUIはなく、操作は基本的にLAN経由でブラウザにて行う

VortexBoxのインストール

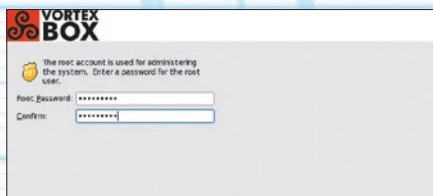
VortexBoxはほかのLinuxディストリビューション同様、イメージファイルで提供されているので、CD-Rに書き込んでパソコン本体に入れて起動しよう。インストールが終わったら、CD-ROMを外して起動し、ログイン画面が表示された状態になれば起動完了。この状態で、ほかのマシンからブラウザ経由で管理画面にアクセスして設定することができる。

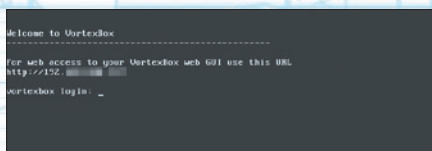
1 インストーラの起動

イメージファイルをCD-Rなどに書き込んでおき、作成したCD-Rからパソコン本体を起動するとメッセージが表示されるので、「Install VortexBox」を選ぶ。HDDが30GB以下や、仮想環境に入れるときは「Install VortexBox On VMWARE or <40GB hard disk」を選択しよう

2 地域の選択

地域の選択画面になるので、「Asia/Tokyo」を選ぶ。リストから選ぶより、地図上をポイントした方がはやいだろう

3 ルートパスワードの設定

ルートパスワードを設定する。以上で初期設定は完了で、CD-ROMからHDDへのインストール作業が始まる

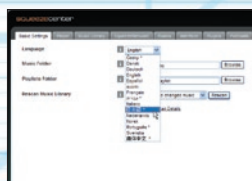
4 VortexBoxの起動

インストールが完了したら、CD-ROMを外して本体を起動する。ログイン画面が出れば成功で「http://***.***.***.***」(*はIPアドレス)の部分をメモしておこう。なお、起動時に音声合成のメッセージが出るのが、驚かないように

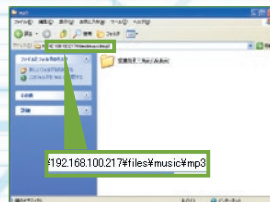
5 ブラウザからアクセス

LANでつながっているマシン(LinuxでもWindowsでも可)にて、ブラウザにメモしたURLを入力する。するとVortexBoxのメニュー画面が表示される

メディアファイルの転送

メディアファイルの転送は、Windowsの「マイネットワーク」を開いた状態で、メディアサーバのIPアドレスをアドレス欄に貼り付ければ、「files」ディレクトリがあるので、その中にメディアファイルをコピーすればよい。なお、権限の問題で、「files」以外のディレクトリにはコピーできない。

1 Windowsからアクセス

メディアファイルを転送するときは、Windowsの「マイネットワーク」を開き、「アドレス」にVortexBoxのIPアドレスを入力する。すると、VortexBox内のフォルダにアクセスできる

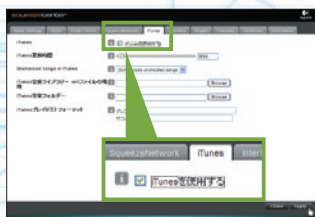
2 メディアファイルのコピー

メディアファイルは「files」以下にある「music」フォルダなどにコピーしよう

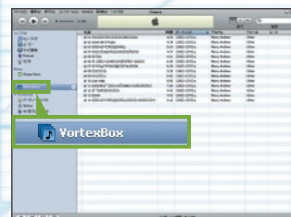
3 音楽ファイルの表示

コピー後は「Basic Setteings」の「ミュージックフォルダー」を指定し、「再スキャン」ボタンを押せば、メインメニューで音楽ファイルを選択できるようになり、DLNAでアクセスできる

iTunesサーバの設定

VortexBoxは設定項目のチェックボックスをチェックするだけで、iTunesサーバにもなる。手軽な割には非常に便利なので、iTunesを利用しているユーザーはぜひ利用したい。設定は「iTunes」タブか更新時間や音楽フォルダの指定などを細かく行うことができる。

1 iTunesを有効にする

設定メニューの「iTunes」タブにある「iTunesを使用する」にチェックを入れる

2 iTunesから再生

iTunesの共有プレイリストに「VortexBox」という項目が表示され、再生できるようになる。ただし、日本語は文字化けしてしまうようだ

Ubuntuベースのメディアサーバ OS「eAR OS」

メディア系のOSとしては、Ubuntuベースの「eAR OS」というOSもある。残念ながらDLNAサーバ機能はないが、メディアを再生することに特化しており、操作性が高く、動画、音楽・画像だけではなく、DVDビデオやテレビ・ネットラジオの再生もサポートしている。インターフェイスは、GUIで、Ubuntuと同様の機能のほかに、Dock形式の独自インタフェースを持つ。また、OpenOffice.orgをはじめ、GIMP・Skype・Firefoxなど人気のアプリがpre-installされている。ちなみに、快適に動作させるためには、ある程度のスペックが必要。メモリは1GB以上積んでおいた方がよい。

eAR OS Free Edition Ver.1.10b
作者名●Acoustic Reality　ファイル名●earos_v1_10b.iso
URL●http://www.earos.dk/

Ubuntuに独自インターフェイスが加わったメディアセンターOS

eAR OSのインストール

eAR OSは、基本的にライブCDなので、パソコンに入れて実行すれば、そのままOSが起動する。本体にインストールしたい場合は、一度、OSを起動したあと、デスクトップにある「Install」アイコンをクリックしてHDD内にインストールを行う。なお、ユーザー名は「earmusic」にしておこう。

1 ライブCDからインストール

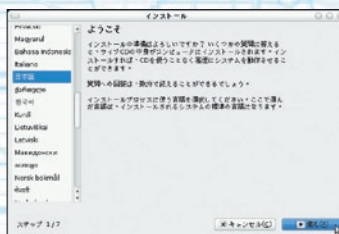
eAR OSのイメージファイルをCD-Rに書き込み起動し、「Start eAR OS Live DVD in Graphical Mode」を選ぶ

2 エラー画面を閉じる

ライブCDから起動すると、エラーメッセージがいくつか表示されることがあるので、すべて閉じよう

3 インストールの実行

デスクトップにある「Install」アイコンをクリックして、HDDへのインストールを実行する

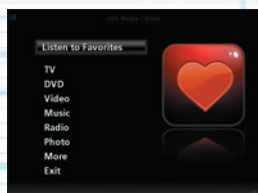
4 ウィザードの起動

インストールウィザードが起動するので、指示に従ってインストールを行う。基本的にUbuntuと同様だ

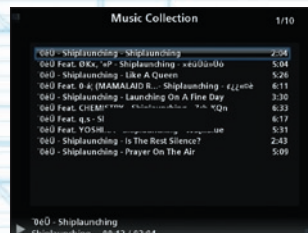
5 ユーザー名は「earmusic」

ログインに使う名前は「earmusic」にしておくと、面倒な設定が不要なのでおすすめ。あとはアカウント名やパスワードなどを設定していけば完了する

eAR OSのメディア機能

eAR OSの最大の特徴は、メディアセンター機能。キーボードを使って、快適な操作でメディアファイルを選び、再生することができる。また、FirefoxやGIMPといったアプリのランチャーとしても利用可能だ。

1 メディアセンター機能

テレビ、DVD、音楽、ラジオ、動画を再生できるメディアセンター。カーソルキーとEnterキー、ESCキーで操作する

2 メディアファイルの再生

MP3やAVIファイルなどの再生が可能。ただし、日本語ファイルは文字化けする

3 ランチャーとしても使える

メディアセンターは、アプリケーションの起動を行うランチャーとしても利用可能だ

多彩なディストリの魅力をまるかじり!!

Linux Distribution Perfect-Catalog
【ディストリビューション パーフェクト・カタログ】

Red Hat の魅力に迫る！

UbuntuはDebian系のディストリビューションだが、Linuxディストリビューションを語る上で忘れてはならないのがRed Hat系Linuxだ。今回はDebianと双璧を成すRed Hat系Linuxについて紹介しよう

Red Hatとはそもそも何!?

「Red Hat Linux」は、アメリカの企業である「Red Hat社」が開発したLinuxディストリビューションで、世界中に数多くのLinux（派生ディストリビューションを含む）が登場しているが、「Red Hat Linux」は最も有名なLinux OSとして認知されている。

その背景には、Linus TorvaldsによるLinux開発直後の段階から、Red Hat社はLinux普及の為に奮闘しており、同社が開発した「Red Hat Linux」は、GNUプロジェクトから登場したライセンスフリーのソフトウェアを「パッケージ」という形で組み合わせ、サーバとしても使えるOSとして開発を進めてきた事にある。

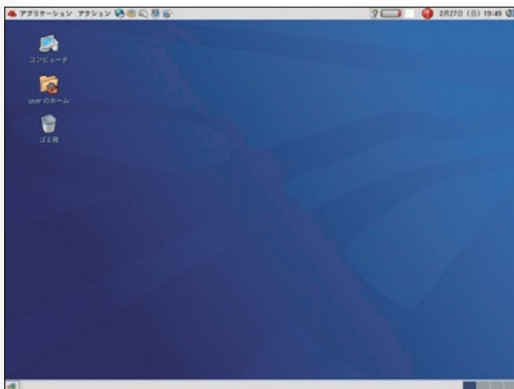
企業向けRed Hatの存在

元々「Red Hat Linux」は無料で提供され、充実したサポートも受けられる事で知られていたが、2002年に企業向け製品版である「Red Hat Enterprise Linux」がリリースされ、同時期に「Red Hat Linux」のカーネルを引き継いだ無料LinuxOS「Fedora」がFedora Projectによりリリースされた（Fedoraプロジェクトは Red Hat社がスポンサーという形でバックアップしている）。

Debianと双璧を成す

サポートが充実化された企業向けLinux【Red Hat Enterprise Linux】

Red Hat社によって開発されている企業向けのRed Hat Linuxで、「Fedora」と共に、Linuxの誕生から共に歴史を歩んで来た数少ないOS。リリース後7年間サポートを受ける事が出来、その内容も充実している事から「企業向けLinux」としてはスタンダード的な位置にある。サポートも含めて、有料で提供されている。

リリースサイクルは1年6ヶ月であるが、無料版である「Fedora」の新しいバージョンがリリースされてから後を追ってリリースされる。新しいバージョンにOSをアップグレードする際は、追加料金を支払う必要がある。「Cent OS」などのクローンOSも登場しており、「Red Hat系Linuxディストリビューション」に多大な影響を与えている事は間違いない。多くのユーザーは、「Linux」といえばこの「Red Hat EnterPrise Linux」か「Fedora」を想像するだろう。

OSとして高い完成度を誇る。略して「RHEL」と呼ばれている

公式サイト：http://www.jp.redhat.com/
開発者：Red Hat社
最新リリース：5.3 / 2009年01月20日

Red Hat系を代表するもうひとつのLinuxOS【Fedora】

Red Hat社が支援するもうひとつのLinuxディストリビューションがこの「Fedora」だ。バージョン6までは「Fedora Core」という名称だったが、バージョン7から「Fedora」となった。Ubuntuと同様、最新技術をふんだんに盛り込む所が特徴的で、「RHEL（Red Hat Enterprise Linux）」の検証OSとしての位置づけにある。「Red Hat Linux」の後継として設計されている事もあってか、その完成度は非常に高い。

2009年2月現在、Fedoraのバージョンは10まで公開されている。メンテナンスが終了したFedoraを保守していた「Fedora Legacy」というプロジェクトが存在していたが、当時のFedora Coreの開発スピードについていけなかった事もあり、2007年2月に解散してしまった。

無料LinuxOSの代表格。Ubuntuのライバル的存在のLinuxだ

公式サイト：http://fedoraproject.org/
開発者：Fedora Project
最新リリース：10 / 2008年11月25日

進化し続けるFedora

「Red Hat Enterprise Linux」は企業向けRed Hat Linuxとして今も尚成長を遂げており、1年6ヶ月ごとに新しいバージョンがリリースされている。高機能ソフトウェアとサポートを年間契約で企業に提供するビジネスモデルを展開しており、新バージョンの「Red Hat Enterprise Linux」が登場した際は、追加料金を支払う事でアップグレードが行われる。ライセンスは「Desktop」「Base Server」「Advanced Platform」の３つが存在している。オープンソース関連のコンサルティングやソフトウェアの導入、最適化、移行や仮想化などの技術的なサポートが適用されるほか、Javaフレームワークのアプリケーション開発に対する支援（JBoss Seam）も行われる為、Linuxベースでシステムを構築する企業から重宝されている。現在「Red Hat Enterprise Linux」の最新バージョンは「5」だが、バージョン「6」が開発されているようだ。

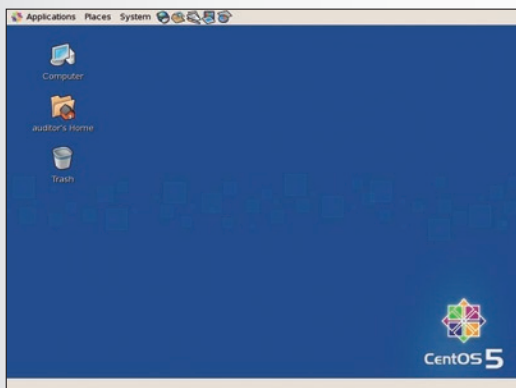
Red Hat社が企業向けにサポートを強化したOSを開発していく一方、コミュニティプロジェクトとして「Fedora」の開発を進めているFedora Projectは、新しい技術を次々と盛り込んだOSの開発に精を出している。

2009年2月現在、Fedoraはバージョン10まで進化しており、仮想化技術の強化やOS起動の高速化などが図られているほか、ユーザ間の無線LAN共有システムなど、新技術も搭載している。RPMパッケージ管理ツールとして、「Red Hat Linux」の派生ディストリビューションである「Yellow Dog Linux」の「Yum」を採用している所が特徴的で、パッケージ管理のしやすさが注目され、オープンソースの無料Linux OSの中では最もポピュラーなディストリビューションであると言えるまでになった（推奨されてはいないが、Debian系Linuxの「APT」も実装している）。「Fedora」の開発サイクルは非常に短く、ほぼ半年ごとに新しいバージョンがリリースされている。その理由は、「Fedora」は「Red Hat Enterprise Linux」の先駆けという位置づけにあり、「Fedora」で採用され、実績のある機能は「Red Hat Enterprise Linux」でも採用されるからだ。

Red Hat Linuxの歩み

RHELと互換性のあるクローンOS【CentOS】

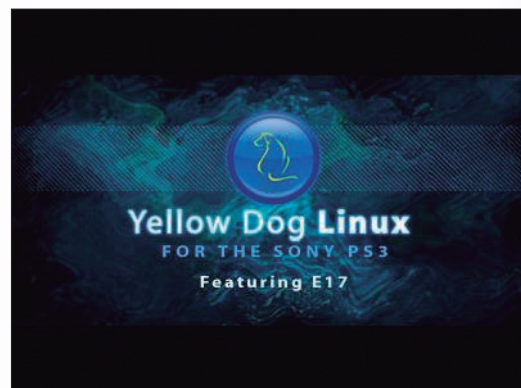
企業向け商用LinuxOSである「Red Hat Enterprise Linux (RHEL)」と完全互換するクローンOS。Red Hat社が「RHEL」のソースを無償公開し、商標を含まず開発されたLinuxディストリビューション。開発はボランティアで行われ、無料で公開されている為Red Hat社のサポートを受ける事が出来ないが、RHELを利用して開発している技術者が検証用OSとして利用し始めた。

近年、レンタルサーバを提供する企業が低価格サーバとしてCentOSを採用するケースが増加している他、商用のクローンであるが故の高機能さが売りとなって、デスクトップOSとしても広く使われている。バージョン5 (CentOS 5)から仮想化技術の強化が進められ、「Xen」が標準搭載されるようになった。メンテナンスの更新期限はRHELと同様、リリースから7年間行われる。

RHELと全く同様の機能を備えたCentOS。RHEL購入前にCentOSを試すのもアリ

公式サイト：http://centos.org/
開発者：CentOS/Lance Davis
最新リリース：5.2 / 2008年6月24日

FedoraとCentOSがベースのLinuxOS【Yellow Dog Linux】

Mac(PowerPC) やIBM System p、YDL PowerStationで動作するLinuxOS。初登場は1999年とその歴史は古く、リリース会社が変わりながらも現在も開発が進められている。FedoraやCentOSで採用されているパッケージ管理ツールの「Yum」は、この「Yellow Dog Linux」が開発したものであり、RPMパッケージ管理が特徴のRed Hat系Linuxに大きな影響を与えている。PlayStation3でも動作する事が確認されており、ある意味Linuxを知らないユーザ層に最も近いLinuxOSであると言えるかもしれない。

Fixstars社から日本語化された同OSが販売されている。同社からのリリースは2008年11月に初めて行われた。

「Yellow Dog Linux」はSonyのPlayStation3でも動作させることが可能なのだ

公式サイト：http://www.yellowdoglinux.com/
開発者：Fixstars社
最新リリース：6.1 / 2008年11月20日

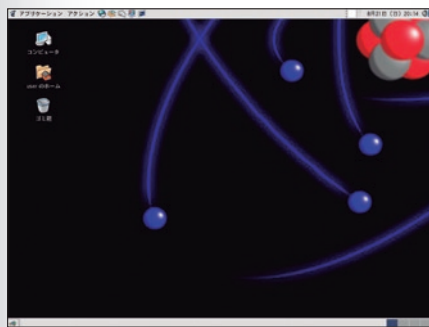
豊富なディストリを有するRed Hat Linux

Ubuntuが「Debian系」と呼ばれるのと同様、「Red Hat Linux」も多数の「Red Hat系」Linuxディストリビューションを生んでいる。その数は「Debian系」を凌ぎ、世界中に優秀なデベロッパーを生み出している点からも、「Red Hat Linux」の優秀さが伺える。PCのシステムがオープンソース化されている傾向にある昨今、オープンソースOSの代表格であるLinuxのコアとして、今後も注目すべきOSであろう。

Scientific Linux

研究機関向けに開発されたRed Hat Linux

CentOSと並び、RHELに互換性のあるLinuxディストリビューション。RHELのクローンとなっている部分はCentOSと同様であるが、一番の違いは高エネルギー物理学分野の一部のパッケージが導入されている点。元々「Scientific Linux」はLinuxマシンのクラスター構成を構築するためフェルミ国立加速器研究所によって作られた。また欧州原子核研究機構が「Scientific Linux」に改良を加えた「Scientific Linux CERN」を開発した。

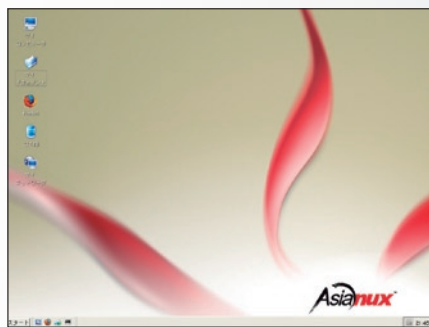
一般層というよりも、研究所や大学などで利用されている。開発された当初は「High Energy Physics Linux」と呼ばれ、その後「Fermi Linux」へと改名されたが、バージョン3.0.1から「Scientific Linux」と呼ばれるようになっている。

「Scientific Linux」はその名の通り、どことなくサイエンスチックな作りとなっている

公式サイト：https://www.scientificlinux.org/
開発者：フェルミ国立加速器研究所
最新リリース：5.2 / 2008年6月26日

Asianux

アジア標準を目指すRed Hat Linux

Asianuxは、アジア諸国が共同で開発したRed Hat系Linuxディストリビューション（開発国は日本、韓国、ベトナム、中国）。カーネルベースはRHEL。「アジアを代表するLinux」というコンセプトで作られ、日本語・中国語・韓国語に標準で対応した世界初のLinuxだ（同国のマルチバイト文字の言語対応は困難とされる）。

サーバとして高い機能を備えた「Asianux Server」が製品化され、2007年の9月に日本国内でも販売されるなど、アジア諸国で注目を集めているLinuxディストリビューションである。「TSN」と呼ばれるテクノロジーサポート専用のWebサイトが開設され、「Asianux」の修正パッチもここで公開されている。「Asianux」と共同開発されている「ミラクルリナックス」は、日本オラクル株式会社が出資している事で有名だ。

アジアの４カ国が共同開発しているだけあって、アジア圏の言語対応が素晴らしい

公式サイト：http://www.asianux.com/
開発者：Asianux Consortium
最新リリース：3.0 / 2007年9月22日

StartCom Linux

仮想化で威力を発揮するStartCom Linux

「StartCom Linux」は、RHELと互換性のあるLinuxディストリビューションのひとつだ。カーネルベースをRHEL5にしたクローンOSとして最初に登場したLinuxディストリビューションで、一時期CentOSよりも注目されたOSである。

「StartCom Linux」の種類はふたつに分類でき、ひとつはサーバ用途の「StartCom Enterprise Linux」、もうひとつはデスクトップOS向きの「StartCom MultiMedia Edition」が開発されている。RHEL5との互換がある事から仮想化技術にも強みを持っており、VMWareなどの仮想化ソフトウェアも稼動する。OSのアップデート、パッケージ管理共にYumで行う所も特徴的だが、最新リリースからしばらく新バージョンのOSが発表されていない。

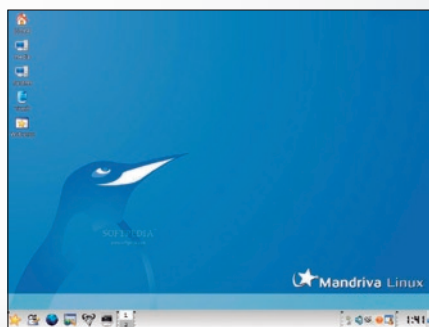
RHEL5のクローンOS。発表された当初は非常に注目を集めたOSだ

公式サイト：http://linux.startcom.org/
開発者：StartCom社
最新リリース：5.0.0 / 2007年4月2日

Mandriva Linux

ユーザーの使いやすさを考慮したディストリ

1998年の7月にGNOME、KDEデスクトップ環境の両方を採用してリリースされた（Ver 5.1）。特徴はPentium CPUに対応した設計となっている点で、GNOMEとKDEデスクトップ環境はインストール段階でユーザが任意に選択できる。オプションとしてXfceデスクトップ環境も用意されている点が魅力的だ。2005年の4月に開発元である「Mandriva社」が社名変更をした事をきっかけに、旧称である「Mandrakelinux」から「Mandriva Linux」へと改名した。

パッケージ管理ツールは「urpmi」や「rpmdrake」など、「Mandriva Linux」独自のものを採用しており、GUIフロントエンドツールとしても使える。それゆえにパッケージ管理やメンテナンスのし易さは高い評価を得ているのだ。

独自のパッケージ管理ツールを持っている「Mandriva Linux」。Red Hat系とは思えない独自性を持ったOSだ

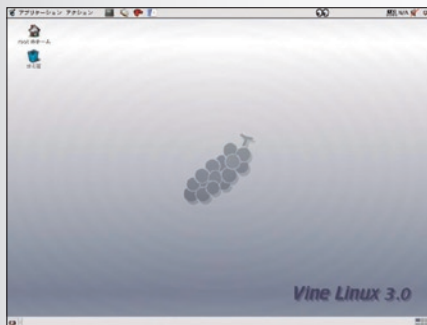
公式サイト：http://www.mandriva.com/
開発者：Mandriva社
最新リリース：2009.0 / 2008年10月9日

国産のRed Hat系ディストリビューション

Linuxの多くは海外の技術者達が開発したものだが、日本国内でも独自のLinuxを作った人達がいる。RHELのクローンOSや、独自のプロジェクトが立ち上がって作られたLinux等、その種類は様々であるが、どれも非常に完成度が高い。これは日本の技術力が海外に負けていない事を証明しており、今現在も開発が進められているLinuxも存在する。ここでは、日本国産のLinux達の一部を紹介しよう。

Vine Linux

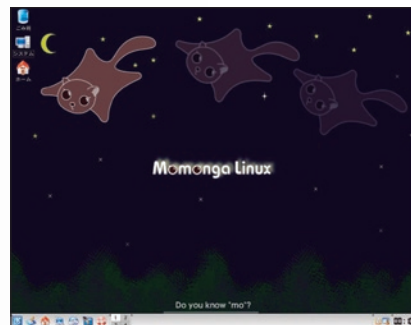
日本国内で開発されたLinuxの先駆

「Vine Linux」は、日本国内で開発されたディストリビューション。パッケージ管理が RPM 形式である為「Red Hat 系」に分類できるが、Project Vine が独自に開発を進めている事から、厳密には「Red Hat」の派生とは言えない。また、Linux Standard Base に準拠していないので正式には LinuxOS とも呼べないが、日本国内で開発されたという事もあり、国内では先駆的な位置づけの OS だ。発表当初は日本国内でよく利用されていたが、Ubuntu や Fedora のように GUI 操作が楽な（初心者ユーザがとっつきやすい）Linux が登場し、人気が奪われてしまっている。しかし、開発自体は非常に少ない人数で作られている為、人的リソースが少ない OS としてデベロッパー達は高い評価を得ている。

日本国産のLinuxディストリビューション。一昔前は、国内において非常に人気の高かったLinuxだった

公式サイト：http://vinelinux.org/
開発者：Project Vine
最新リリース：4.2 / 2007年12月25日

Momonga Linux

デスクトップ環境が揃った国産Linux

「Momonga Linux」は「Vine Linux」と同様、日本国内で開発された Linux だ。2002 年の 7 月に Momonga Project が発足されて以降、現在も開発が進められている。特徴的なのはインストールの方法で、テキストでインストールを行う通常版のほか、Cooperative Linux 用ディスクイメージの「coMomonga」が存在する。デスクトップ環境も GNOME、KDE、Xfce と揃っており、国産故の日本語対応も標準で備わっている為、日本のユーザにとってはとっつき易い設計となっている。Momonga Project 発足の経緯は、Kondara Project のデベロッパーとスポンサーの間で商標問題が発生し、2002 年に同プロジェクトが解散。その後、Kondara Project の開発者達が Momonga Project を結成したのである。

かわいらしいモモンガの絵が描かれたデスクトップが印象的だ

公式サイト：http://www.momonga-linux.org/
開発者：Momonga Project
最新リリース：5 / 2008年10月10日

HOLON Linux

Macintoshと互換性のあるLinuxOS

日本国内で開発された数少ないLinux。「HOLON Linux4 for PC」、「HOLON Linux4 for Macintosh」の2種類が存在した。2000年の4月に株式会社ホロンから「Linux 2000G」という名のOSが発表され、同年11月に「HOLON Linux 2.0 Server」がリリース。順調にアップグレードがされたが、2008年10月に親会社の「インデックス・ヴィジュアルアンドゲームズ」と合併。社名を「株式会社インターチャネル」に変更し、HOLONを含む同社Linux OS（XonWindows3など）の全てが開発中止となった。

White Box Enterprise Linux

RHELソースをリコンパイルしたクローンOS

RHELのクローンOSのひとつ。アメリカのボーレガード郡立図書館がスポンサーとなり、開発されたLinux。その名の通り、RHELをホワイトボックス化したクローンOSである事を強調しており、無料で使う事が出来た。

Lycoris Desktop/LX

Pocket PC版のホームユーザーLinux

Caldera OpenLinuxのバージョン3.1をベースとしたLinuxディストリビューション。ホームユーザ（一般層）向けに作られている為、GUI環境に力が入れられている。Lycoris社がMandriva社に買収された以降は開発が中止となったが、代わりにMandriva社が提供するOSと統合された。

Kondara MNU/Linux

「Momonga Linux」の前身となったOS

RawHideソースの修正やSRPMを配布するプロジェクトである「Kondara Project」が開発したLinuxディストリビューション。KDEやGNOMEの改良や、Windowsのメモ帳と類似した「mgedit」、独自パッケージ管理ツールである「mph-get」などが作られ、大きな評価を得た。ちなみに日本国産のLinuxである。

Caldera OpenLinux

個人PC向けに開発されたLinux

LSB1.0準拠の商用Linuxディストリビューション。Li18nuxに適合している。パーソナルPCに向けた設計となっている点が特徴で、「Caldera OpenLinux」の日本語版が1999年に出荷され話題となった。また、「OpenLinux」をベースとしたサーバ向けのOSである「OpenLinux eServer」もリリースされた。

初心者にオススメ! Linux入門の決定版

Ubuntu 8.10 インストールガイド

豊富なユーザーに支えられたLinuxディストリビューションの超定番!

いま一番人気のディストリだけあって、ブログや掲示板での情報交換も非常に活発。わからないことがあっても手軽に答えが見つかるから、初心者でも安心して使い始めることができるのだ

GUIDE 1 ディスクからインストーラを起動

本誌付録DVD-ROMに収録されているUbuntuのISOイメージをDVD-Rに焼いて、まずライブDVDを作成しよう。それをドライブに入れてPCを再起動するとブートメニューが開くので、カーソルキーの上下で「Ubuntuをインストール」を選択してEnterキーを押す。これで、インストールがスタートする。

起動時の画面

この画面ではまだマウスは使えないので、キーボードだけでカーソル移動と項目選択を行なう必要がある

インストール作業が途中から進まないときは?

グラフィック機能が正しく認識されないと、インストール作業が進められない。そんなときは「セーフグラフィック」モードで起動してみよう。画面解像度が小さくなるが、インストール成功率はアップするはずだ。

F4キーを押すと、モードを選択するためのメニューが表示される

GUIDE 2 表示言語や時刻設定などインストールの初期設定を行なう

インストーラが起動したら、まず表示言語を選択。あとは「進む」ボタンを押して、時刻設定用のタイムゾーンやキーボードのキー配列も順次指定する。これで、Ubuntuインストールのための初期設定は完了。続けて、インストール先のドライブ選択に進む。

インストーラの表示言語を選択

まず、このインストール作業を進めるための表示言語を選択する。初期状態で「日本語」が選択されているはず

タイムゾーンの設定

現在インストール作業を行なっている場所（またはその近くの都市）を選べば、タイムゾーンが決定する

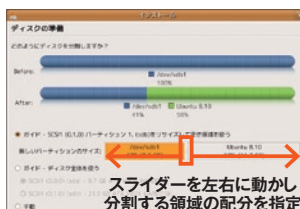
キーボード配列の指定

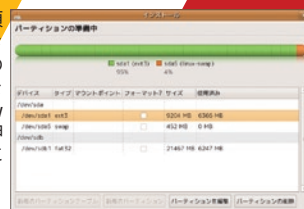
キーボードのキー配列を指定。わからないときは左右の選択画面ともに「Japan」を選んでおくのがオススメ

GUIDE 3 パーティションの分割

次に、Ubuntuのインストール先ドライブを指定。WindowsとUbuntuのデュアルブート環境を作りたいなら、新しいHDDを増設するか、Windows用の記録領域からUbuntu用の領域を分割する「パーティション編集」が必要だ。なお、この作業の前にはWindowsのデフラグ作業をしておき、大事なデータもバックアップしておこう。

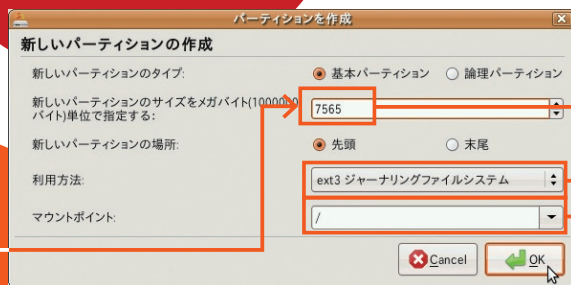
既存のパーティションを分割

Windows導入済みのHDDにインストールする場合は、「ガイド-パーティションをリサイズ～」を選び、Ubuntu用の記録領域を確保しよう

空き領域に新規パーティションを作成

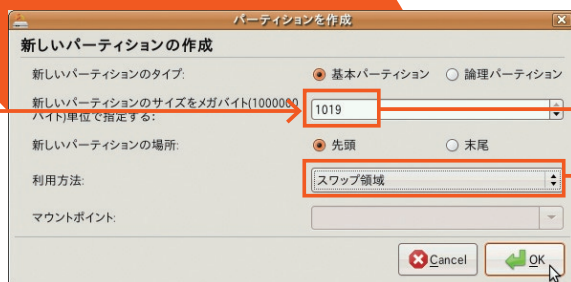
Ubuntu用の領域として「空き領域」があるのを確認。それを選択後、「New Partition」を押して空き領域に新規パーティションを作ろう

GUIDE 4 新規パーティションをLinux用に初期化

新規パーティションを作成した場合は、領域をLinuxインストール用に調整する必要がある。新規領域をLinux用に「ext3」ファイルシステムで初期化する。このとき、仮想メモリ用の空き領域を別パーティションとして削っておき、残りをUbuntu用のHDD領域に確保する。

空き領域に「ext3」フォーマットと「スワップ領域」を作成。すでにパーティション分割されたドライブをext3化して使いたい場合は、「パーティション編集」でフォーマットしよう

ext3ドライブとスワップ領域の2つを作成

UbuntuインストールのためのHDDサイズ（MB単位）

HDDフォーマットをLinux用の「ext3」にする

マウントポイントを「／」（ルートフォルダ）に

Ubuntuが仮想メモリとして利用するHDD領域（MB単位）

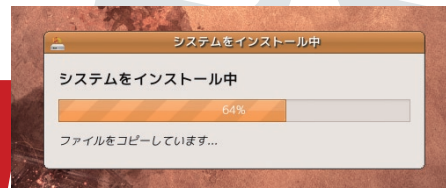
ドライブの用途を「スワップ領域」にする（仮想メモリ用）

GUIDE 5 Ubuntuのインストール

作成したext3フォーマットのドライブを選んで「進む」をクリック。最後に、ログイン時に使うユーザーIDやパスワードを登録（絶対に忘れないように！）したら、いよいよインストールの開始だ。画面中央に表示されるバーが100%になるまで待とう。

作成したパーティションを選択

ext3フォーマットされたドライブをインストール先に指定。ここで「進む」ボタンを押すと、HDDにパーティション作成操作の結果が適用される

Ubuntuのインストール開始

最後にユーザーIDとパスワードを登録すれば、Ubuntuのインストールが始まる。Windowsよりも短時間で作業は完了するぞ

GUIDE 6 再起動してUbuntuをスタートしよう

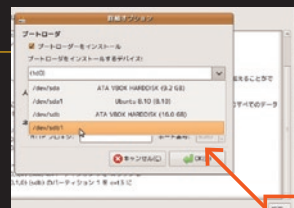
インストール作業が終わったら、PCの再起動をうながすダイアログが画面に表示される。ここでボタンを押すと、再起動後にUbuntuのログイン画面があらわれるぞ。インストール作業中に登録したユーザー名とパスワードを入力してEnterキーを押せば、起動音とともにUbuntuのデスクトップ画面が表示されるのだ。Windowsのようなインタフェースで、直感的に操作できるぞ。

インストール後に再起動

インストール作業後に再起動すると、Ubuntuのログイン画面が表示される。ここで、インストール中に指定したユーザー名とパスワードを入力

ユーザ名とパスワードを入力してUbuntuを起動!!

外付型HDDへのインストールでは「MBR」の保存場所に注意

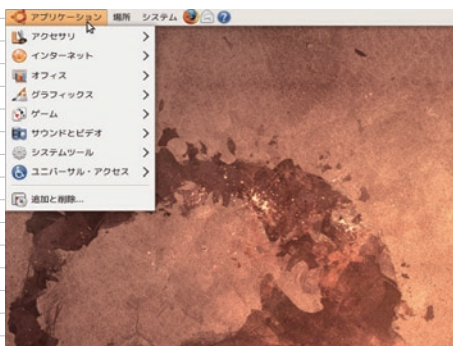
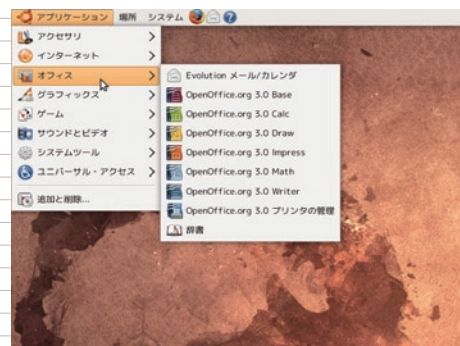
UbuntuをUSB接続の外付HDDにインストールする場合、初期設定のままインストールすると、PCのBIOS画面でドライブが認識されず、OSが起動できないこともある。これは、起動OSの設定を行う「MBR（マスターブートレコード）」が外付HDD上に記録されたことで、PCからOSの起動情報が参照できないためだ。MBRの保存位置はインストール時に設定できるので、内蔵HDD上に保存するように設定しておこう。

インストール確認画面で「拡張」を押そう

大人気Linuxディストリを徹底解説!!

初心者用 For Beginners Ubuntu講座

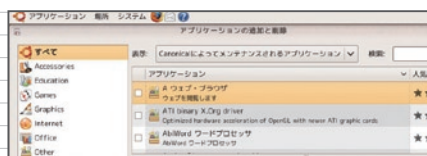
GUI環境なので、初心者も簡単に扱える「Ubuntu」。Windowsに慣れ親しんでいる人は、このデスクトップ操作もすぐに慣れるだろう。ここでは、Ubuntuを使い始めたばかりの初心者に向けて、基本的なデスクトップの操作を紹介する。今回はプログラムの起動から各種ネットワークの設定まで、手順を追いつつ説明していく。さらに、Linuxを操作する上で最低限の知識として必要な基本的用語を解説しよう。

プログラムを起動してみよう

Ubuntu上でメールやインターネット、ゲーム等の各種アプリケーションを起動するにはどうすればよいのだろうか。答えは簡単、Windowsと同じくメニューから各プログラムを選択するだけでいい。Windowsと違う所は、画面下にタスクバーが存在しない点(スタートボタンやWindowsボタンが無い)だ。代わりに、Ubuntuには画面上部にタスクバーが存在し、Windowsの「スタートボタン」に当たる「アプリケーション」ボタンから各プログラムを選択する。「アプリケーション」ボタンを押すとプルダウンメニューが表示されるので、起動したいプログラムをクリックしてみよう。

クリックでメニューが表示されたら、ジャンルの中から自分が使いたいソフトが登録されている場所を選択

選択したジャンルがさらに拡張表示される。上の画面になったら、カーソルを右に移動し、ソフト名をクリック

アプリケーションを追加してみよう

基本的な追加方法

アプリケーションを追加する方法は、大きくわけて3つある。その中のひとつが、「アプリケーションの追加と削除」だ。「アプリケーション」ボタンから「追加と削除」ボタンを選択し、「検索」ボックスに追加したいアプリケーション名を入力。表示されたアプリケーション名の左にあるチェックボックスにチェックを入れ、「変更の適用」ボタンを押すとインストールができる。

ソフトによってはチェックを入れることで関連ライブラリもまとめてチェックされるものがある

パッケージマネージャの利用

次の方法は、「Synapticパッケージマネージャ」からのアプリケーション追加方法である。「Synaptic」はUbuntuが持つプログラムのパッケージ管理ツールだ。「アプリケーションの追加と削除」でお目当てのアプリが見つからない場合は、この「Synapticパッケージマネージャ」で探してみよう。やり方はタスクバーの「システム」から「システム管理」を選択し、「Synapticパッケージマネージャ」を起動してアプリを追加する。

Synapticは、リポジトリと呼ばれる、Web上のソフト管理情報を登録することで、より多くのソフトが扱える

コマンドラインからの追加

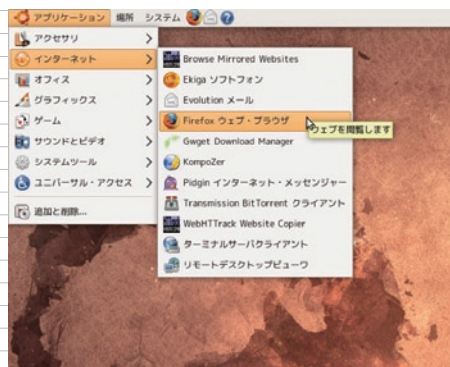
最後に挙げられる方法が、「apt-get」コマンドによるアプリケーションの追加である。「アプリケーション」→「アクセサリ」の「端末」を選択し、コマンドを入力する端末を開いてから、「sudo apt-get install (プログラム名)」と入力する。コマンドラインでの操作なので、Linuxコマンドに慣れていない初心者にはやや難しい方法だが、知っておいて損はない。

ソフトの追加などの作業には、コマンドの前に管理者権限で実行する「sudo」をつける

インターネットの使い方&設定の仕方

インターネットにアクセスしてWebページを見たい場合は

ブラウザを起動

インターネットを使ってWebページを見たい場合、Webブラウザが必要だ。Webブラウザとは、インターネット上に存在するWebページやホームページを見る為のソフトだ。Ubuntu 8.10には、デフォルトで「Firefox」というWebブラウザが搭載されている。インターネットに繋がっている状態であれば、Firefoxを使ってWeb上に存在するサイトを見ることができる。

「アプリケーション」→「インターネット」→「Firefox ウェブ・ブラウザ」を選択しよう

最初はUbuntuのホームページが表示される。デフォルトでGoogleツールバー（画面右上）が入っているので、ここにキーワードを入れて検索してみよう

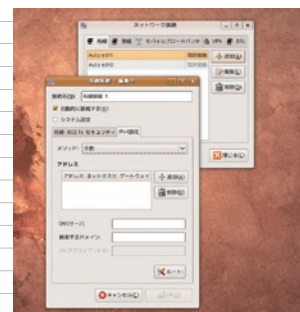
検索ウインドウが組み込まれていることからも、FirefoxはGoogleを推奨しているようだ

このような画面が表示された場合は、オフラインモードになっている。メニューバーの「ファイル」から「オフライン作業」をクリックして、オフラインモードを解除しよう

固定IPの設定とネットワークインターフェースの確認

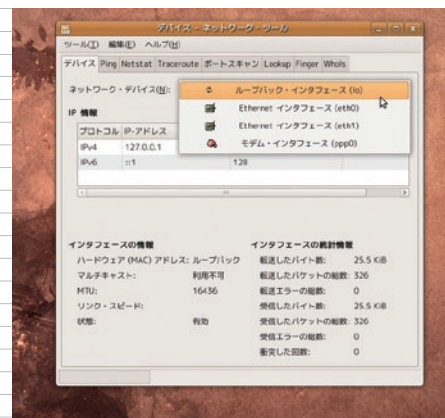
固定IPアドレスの設定

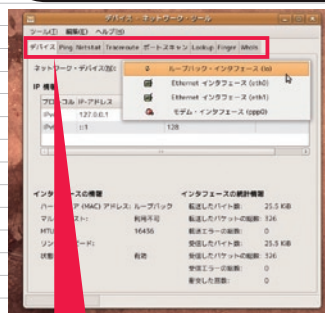
一般的にインターネットに接続する場合、固定IPを持つゲートウェイからPCに動的IP（ローカルアドレス）が割り振られる。IPアドレスとは、PCがネットワーク上のどの位置に存在しているかを示す住所を数値化したようなもので、場合によってはPCに固定IPアドレスを設定する必要がある。

「システム」→「設定」→「Network Configuration」を選択し、設定画面を開く

ネットワークインタフェースを選択して、「編集」ボタンを押すと、各インタフェースの設定ができる

ネットワークインタフェースの確認

LANケーブルは、NIC（Network Interface Card）に接続する。NICを複数持つPCもあるので、どのNICにどのIPが割り振られているか確認する為にも、ネットワークインタフェースの確認手順を知っておこう。

ネットワークインタフェースの確認は、「システム」→「システム管理」の「ネットワークツール」から確認する

「デバイス」タブの「ネットワーク・デバイス」から、ネットワークインターフェースを選択してみよう。インターフェースに割り振られたIPアドレスなどの情報が確認できる

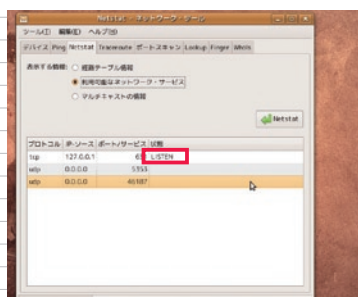
ネットワークツールを使って、様々なネットワーク情報を取得しよう!

ここでは、前ページで起動方法を紹介した「ネットワークツール」の、各ツールの役割を具体的に紹介していく。インターネットへの接続が当たり前になっている今日では、非常に便利なツールばかりなので、是非使ってみよう。

Pingで疎通確認

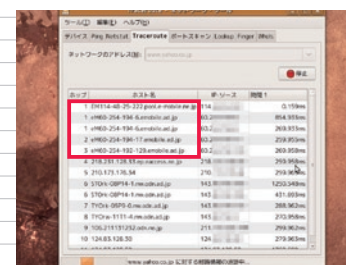
Pingは、IPアドレス(もしくはドメイン)に対して「ICMPパケット」と呼ばれるパケットを飛ばし、飛んだ先(相手)に届いたかどうかを確認してくれるツールだ。インターネットに限らず、ネットワーク内のPCに対して接続の正常性を確認するために使うと良いだろう。

「www.yahoo.co.jp」にPingを飛ばした例。正常にパケットが送受信できていることから、インターネットへの接続が確認できる

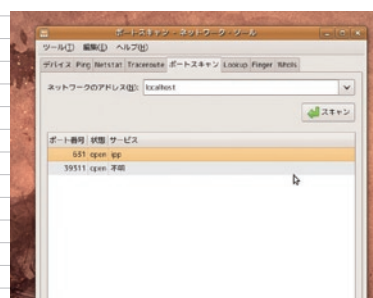
Netstatで、自分のPCの開いているポートを確認しよう

Netstatは、利用できるプロトコルやポートの状況を確認できるツールだ。「Listen」と表示されている場合は、ポートが開いているということを示す。

NetstatでTCPポートがListen状態になっている事が確認できる

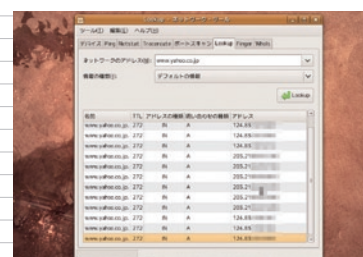
Tracerouteで経路情報を見る

Tracerouteは、自PCからネットワーク上の他PCに到達するまでの経路を教えてくれるツールで、IPアドレス(もしくはドメイン)を指定すると経路情報を表示してくれる。

「www.yahoo.co.jp」に到達するまでの経路情報を確認してみる。今回接続に利用している、E-MOBILEのアクセスポイントを通過しているのがわかる

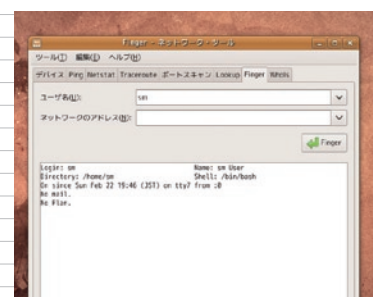
ネットワークを介した他PCのポートの状況を確認

ネットワークアドレスを入力してポートスキャン機能を使うと、開いているポートとプロトコル(サービス)の内容が確認できる。ただし、ほとんどのサーバはセキュリティの観点から、ポート情報を他者に知られないように設定している。

localhost(自分自身)に対してポートスキャンを行うと、ポート番号「631」が開いていることがわかる

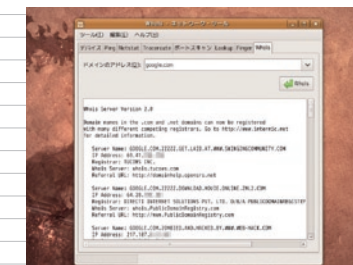
LookupでIPとドメインの関係を知ろう

Lookupは、ドメインからIPアドレスを抽出したり(正引き)、IPアドレスからドメインを割り出してくれる(逆引き)ツール。正引きと逆引きは、DNSと呼ばれるサーバがおこなう。

Lookupツールを使い、「www.yahoo.co.jp」を正引きしてみた。Yahooのサーバはたくさんあるが、そのひとつひとつのIPアドレスが表示されている

fingerでユーザ情報を知る

Fingerは、同じコンピュータ上で指定したユーザの情報を知ることができる。Ubuntuはマルチユーザ対応のOSなので、他のユーザ情報を知りたい時に使うといいだろう。

fingerを使い、ユーザ情報を取得する。ユーザ名やホームディレクトリ、使用shellなどが確認できる

IPやドメインからサーバの情報を知るならWhoIs

WhoIsは、IPやドメインから、サーバの情報を引き出すWhoisサーバに問い合わせて、情報を表示してくれるツール。サーバ名やドメイン、IPを知りたい場合に使おう。

「google.com」をwhoisサーバに問い合わせてみた。サーバ名やIPアドレスなど、サーバの情報がわかる

Ubuntu基本用語解説

Ubuntuを理解する為には、たくさんのLinux用語を理解する必要がある。Linux用語を知っておくと、Ubuntuをより深く理解出来るのだ。ここでは、Linux(Ubuntu)でよく使われる基本的な用語のいくつかを紹介しよう。インターネット上のUbuntuに関するサイトのほとんどは、以下の基本的な用語が当たり前のように使われているので、Ubuntu入門の意味をこめて、ここで紹介されている用語を是非覚えておきたい。もちろんLinux用語はこれが全てではないので、これらの用語をきっかけに、さらに多くの用語を調べてみると良いだろう。

GNU プロジェクト

UNIX互換のソフトウェア環境を、全てフリーソフトで実装する事を目的としているプロジェクト。GNUプロジェクトの思想はそのままLinuxのソフトウェア環境にも浸透している。コピーレフトのGNU/GPLや、GNU LGPL、GNU FDLなどの様々なソフトウェアのライセンスが存在する。GNUのソフトウェアを実装しているLinuxを「GNU/Linux」と言い、本稿で紹介しているUbuntuも、「GNU/Linux」のひとつである。Linux上で実装されているほとんどのフリーソフトは、GNUライセンスに基づいて作成されている。

ディストリビューション

OSのカーネルとアプリケーションなどのプログラムをひとまとめの「パッケージ」としてインストールできるもの。「Linuxディストリビューション」とは「LinuxOSの種類」という意味合いでも使われる。Linuxディストリビューションは大きくわけて「RedHat系」と「Debian系」に分ける事が出来、Ubuntuは「Debian系」のLinuxディストリビューションのひとつだ。また、Linuxディストリビューションは無料のもの(フリーソフトウェアで構成されたLinux)と有料のもの(サポートなどが含まれた商用Linux)に分類できるが、無料のものは各国のFTPサーバや雑誌の付録としてCD-ROMなどで配布されている。

ディレクトリ

ディレクトリとは、Windowsで言う「フォルダ」と同様の言葉。単体のファイルを分類したり、整理するための箱のようなもの。デスクトップ環境を操作する上で、ディレクトリはほとんどユーザが作成するものだが、OSそのものがファイルで構成されているLinuxでは、特殊な意味合いを持ったディレクトリが多く存在する。Linuxはツリー型のディレクトリで構成されており、最上層となるルートディレクトリから始まり、Linuxコマンドのバイナリファイルが格納された「binディレクトリ」やOSの起動に必要なファイルが格納されている「bootディレクトリ」、ユーザ情報が格納される「homeディレクトリ」などのディレクトリが存在する。

Linux コマンド

Linuxはグラフィカルな環境で操作するGUI環境と、コマンドでOSを操作するCUI環境が用意されている。Linuxコマンドとは、CUI環境でOSを操作する上で必要となるコマンド群の事で、マウス(GUI環境)で操作できない部分がLinuxコマンドで行える事もある。UbuntuはGUIに力が入れられているのでLinuxコマンドを使用せずとも十分操作が出来るが、ソースのコンパイルやシェルの実行などはLinuxコマンドから行ったほうが良いとされる(コンパイルやシェルの実行過程や詳細が見れるなどのメリットがある)。Ubuntuにおいても、GUIで操作できてCUIでは出来ない事はほとんど無い為、Linuxの上級技術者はLinuxコマンドに精通している。

端末

LinuxをCUIで操作するためのソフトウェア。Windowsの「コマンドプロンプト」と同様の位置づけにあるソフトウェアで、ユーザがLinuxコマンドを入力しOSに命令を与えた後、その結果を出力しユーザに伝える役割を持つ。別名「コンソール」とも呼ばれる。GUI環境で操作をするよりもCUI環境で操作を行った方が動作が軽いなどのメリットがある為、Linuxコマンドに精通した技術者はデスクトップ環境を使わず、端末のみでLinuxを操作する。Ubuntuでは、「アプリケーション」から「アクセサリ」と進み「端末」を選択で起動できる。

シェル

ユーザから与えられた指示をOSに伝え、その結果をユーザに返すソフトウェア、及びスクリプト。WindowsのMS-DOSプロンプトに近い。Linuxでは「Bシェル」、「Cシェル」など、複数の種類が存在する。Linuxコマンドを利用したひとつの「命令文」をシェルと呼ぶことが出来るが、一般的にLinuxコマンドが使われた命令文が複数書かれたスクリプト(シェルスクリプト)を指す言葉として使われる。ユーザが任意にシェルスクリプトを作る事も出来るが、Linuxにおいてネットワークの設定やプロセスのデーモンなど、OSのカーネルに関わる重要な処理もシェルスクリプトが使われている部分が多い。

ファイル権限

ユーザがファイルにアクセスする為の権限。不正操作を防ぐシステムとして実装されたものであり、Linuxの全てのファイルにはファイル権限が設定されている。ファイルの所有者、所有者が所属するグループ、第三者(その他)に区分し、それぞれに属するユーザにはファイルの「読み込み」、「書き込み」、「実行」の3つの権限が設定される。LinuxのCUI環境では、読み込みが「r」、書き込みが「w」、実行が「x」という文字列で表示され、「-」の場合は対象のファイル権限が存在しない事を指す。ファイル権限は、「ls」コマンドに「-l」オプションをつけることで確認できる。

アーカイブ

複数のファイルがひとつのファイルにまとまっている状態を指す。近年、ファイルをアーカイブするのと同時に圧縮する技術が一般的になっており、Linuxの場合「tar」や「zip」、「gzip」、「lzh」などがアーカイブ方式に当たる。ファイルをアーカイブする事により、ファイルのアップロードやメールのファイル添付が容易になる他、圧縮されることによりパケットの量やディスク領域の占有率を抑えることができる。ファイルをアーカイブする為のソフトウェアを「アーカイバ」と呼ぶ。アーカイブ方式とアーカイバは多数存在しており、Linuxではtarやgzipなどがよく使われている。

バイナリファイル

テキストファイル以外のファイル。テキストファイルとは、その名の通り文字(テキスト)で作られたファイルであり、ASCIIコードなどが使われている。バイナリファイルとは、文字コードの範囲などが考慮されないバイナリフォーマットで作られたファイルの事であり、音声・音楽ファイルや動画、画像ファイルなどが含まれる。当然ながらテキストファイルはエディタなどで内容が確認できるが、バイナリファイルは文字として内容を確認することはできない。FTPクライアントソフトを使いサーバにファイルをアップロードする際には、バイナリファイルかテキストファイルかを選ぶ必要のあることも。

パッケージ

パッケージとは、コンパイル済みのバイナリファイルのことを指す。通常、ソフトウェアは人間がわかる言語で書かれ(これをソースファイルと言う)、それをコンパイル(機械が理解できる言葉に翻訳)する必要がある。Linuxが実装するほとんどのソフトウェアはパッケージとして管理されており、ユーザはコンパイル作業をおこなうことなくソフトウェアを自由に使うことができる。Red Hat系のLinuxディストリビューションでは「RPMパッケージ」、Debian系のLinuxディストリビューション(Ubuntuを含む)は「Debパッケージ」と呼ばれるパッケージ管理方法で管理されている。双方に互換性は無いが、RPMパッケージをDebパッケージにするソフトなども存在する。

カーネル

カーネルとは、OSが動作する上で一番重要となる核の部分。アプリケーションの基本的な動作と環境を提供するソフトウェアだ。ハードウェアと密接に関係している部分でもあり、ハードウェアとミドルウェアの間に位置する。LinuxカーネルはCPUやディスクの制御やメモリの管理、タスク・プロセス管理の処理を受け持っている。LinuxカーネルはGPLライセンスに基づいて誰でも入手することが出来るため、自分だけのオリジナルLinuxの作成に奮闘している技術者も多く、様々なLinuxディストリビューションが登場した。

パーティション

パーティションとは、ハードディスク内で分割された部分を指す。ひとつのハードディスクで複数の領域を作成し、各領域をユーザの任意で使い分けることができる。Ubuntuを含むLinuxOSにおいて、パーティションの設定はOSのインストール段階で行う事が出来、例えば一台のハードディスクをふたつのパーティションに区切っておき、片方の領域をLinuxに、もう片方の領域をWindowsにする(これをデュアルブートと言う)事も出来る。Linuxのパーティションの設定では、物理的にハードディスクのパーティションを作成する「物理パーティション」と、ハードディスクの使用領域をディスク使用率によって変動させる「論理パーティション」を選ぶことが可能。

Linux100% vol.7

平成21年4月1日発行

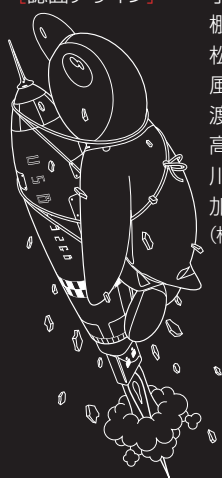
［発行人］ 伊藤淳
［編集人］ 西尾崇彦
［発行所］ 株式会社晋遊舎

〒102-0073
東京都千代田区九段北1-15-14
［営業・広告］ 03（5213）3451
［編集］ 03（5213）3471
［印刷所］ 大日本印刷株式会社

［編集］ 蔵田昌義　柴田崇志

［執筆］ 大林真人　湯一路
vine_user　Akira Ohgaki
u-bon　安達尚喜

［編集協力］ 有限会社クロックワークス
株式会社デジカル
有限会社X-1
小枝祐基

［表紙デザイン］ 高橋コウイチ(WF)
［表紙イラスト］ 福田武比呂
［誌面デザイン］ 小澤元太郎
棚橋　裕
松田　満
風間篤士
渡辺亜紀
高野里恵
川口嘉寛
加地昭太
(株式会社アイダックデザイン)

【編集者・ライター大募集】
Linux100%の誌面作成にご協力いただける方を募集しています。ブロガーなど実務経験がない方も大歓迎です。詳細は下記メールアドレスまでお問い合わせください。
その他、誌面に関するお問い合わせについても同アドレスあてにお願いいたします。

宛先は
〒102-0073
東京都千代田区九段北 1-15-14
株式会社晋遊舎　Linux100%編集部まで
メールの場合は linux100@shinyusha.co.jp まで

BACK NUMBER

vol.1 3D KNOPPIXパーフェクトマニュアル

BEST TOOLS SELECTION 25
Ubuntuスタートアップガイド
スキルアップ学園Linux版
リナックスラボ
・Linuxでタッチパネル
・PortableLinux　など

vol.2 このフリーソフトがスゴイ!!

myPdiscがアツイ!
Ubuntu超基本テクニック&セッティング
Linuxラボ
・Linuxサーバ構築
・Samba活用
・USB Ubuntu
CompizFusion究極マスター　など

vol.3 ワンクリックでデスクトップカスタマイズできる!!

Bootable Linux超活用術
・PuppyLinux　・Knoppix Linux100% Edition
・G DATA AntiVirus
リナックスラボ
・Google携帯エミュレータ
・Webアプリ実行環境「Prism」
ハードウエアセッティングマスター　など

vol.4 Fedora vs Ubuntu 2大最強OS完全解説

Fedora9パーフェクトマニュアル
・基本の使い方
・本体／ソフトウエアインストールなど
Ubuntu最強化総まとめ
このフリーソフトがスゴい!
・インターネット／マルチメディア／ライティングほか
リナックス玄人技

vol.5 1CD Linuxパーフェクト・ガイド

TurboLinuxがスゴイ！
UbuntuからXBMCまで　LiveCD大全集
・用途別：オススメLiveCDはコレ！
・オリジナルUSB Linuxの作り方
UbunTuning!!　～UbuntuをVistaよりも便利にする40の方法～
・システム管理／セキュリティ／ハードウェアほか
UMPCでLinuxを使う　など

vol.6 本誌オリジナルOS「Linux7」

本誌ではじめるOSカスタマイズ・テクニック
Windows→Linux完全移行のススメ!!!
・Linux限定の超絶ツール&アプリを大公開！
・WindowsのデータをLinuxで自由自在に活用！
・Linux上でWindowsを使う！
最新版リリース！ Fedora10はココがスゴイ
WindowsユーザーのためのLinux超基礎講座　など

購入方法
バックナンバーは最寄りの書店にてご注文いただけます。弊社に直接ご注文いただく場合は、ご希望の号と冊数、ご住所・お名前を明記のうえ、本の代金（1冊につき1,380円）と送料（冊数と発送地域により異なりますので、右の電話番号までお問い合わせください）を、現金書留にて右の宛先までお送り下さい。

ご送付先
〒102-0073
東京都千代田区九段北1-15-14　株式会社晋遊舎
Linux100%編集部　バックナンバー係
TEL 03-5213-3451

ご愛読御礼!!

読者プレゼント

P R E S E N T

1 ネットトップPC Eee Box B202

ASUSTeK

CPUにAtomを採用した、格安・コンパクト・高性能な「ネットトップPC」がコレ

2 玄箱 KURO-NAS/X4

玄人志向

シリアルATAのHDDを4台内蔵できる、ネットワークサーバ用のケース。サーバ管理にDebianを採用

3 1TB外付型HDD HDCS-U1.0

アイ・オー・データ機器

1TBの大容量USB外付型ドライブ。東芝製テレビ「REGZA」の録画メディアとしても使用可能

4 はじめてのTurbolinux Client2008

工学社

本誌Vol.5でも紹介した製品版ディストリ「Turbolinux」最新版を極めるための、パーフェクトガイド

5 SideWinder X8 Mouse

マイクロソフト

多機能ゲームマウスの最新モデル。ただしLinuxでフル機能が使えるかどうか、編集部では未検証

6 本誌特集で使用した 1～8GBのUSBメモリ

バッファロー、A-DATAなど各社

誌面作成のために編集部内で使ったUSBメモリをプレゼント。容量・メーカーは選べないので注意

ご応募のきまり

本誌とじこみのハガキに、上記賞品のなかからご希望の商品番号と必要事項をご記入のうえ、50円切手を貼ってご応募ください。締め切りは2009年5月28日（木）です（当日消印有効）。なお、当選者の発表は賞品発送をもって代えさせていただきます。

みなさん、ドシドシご応募ください!!